

ConMas i-Reporter

**カスタムURLスキームによる
システム連携の概要説明**

株式会社シムトップス

改訂履歴

日付	バージョン	記載ページ	改訂内容
2014-06-30	V4.2	--	初版を発行しました。
2014-09-17	V4.2	P6	複数接続先が設定されている場合のカスタムURLスキームを追記
2015-09-28		P7	i-Reporter for Windows 2.2.0014 より、カスタムURLスキームに対応 Windows版 i-ReporterカスタムURLスキームの注意点
2016-11-24	V5.2	P8	カスタムURLスキーム カスタムマスター連携を追加
2016-12-22	V5.2	P9	クラスター値を入力するカスタムURLスキームについて追記
		P10	カスタムURLスキームで帳票（定義）をローカルにダウンロードする機能について追記
2018-04-03	V6.0	P4	●帳票の編集（+自動、手動ログイン）について機能説明文を修正
2020-06-30	-	P6, 7	Windows版はサーバー指定ができない旨を削除
2022-06-23	-	P7	Windows版の注意点について更新
2022-07-01	-	P11	「クリップボード画像を受け取り、画像クラスターに表示する（iOS 版のみ）」を追加

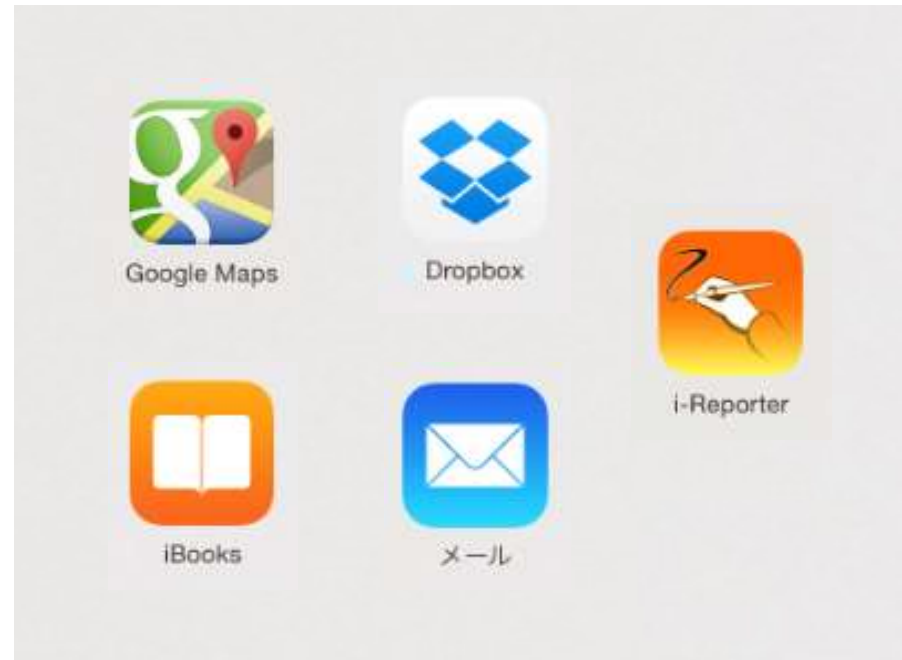
カスタムURLスキームとは

- iOS/Windowsが実装するアプリ間連携の仕組みです。
- Webブラウザからアプリを起動できます。
(別アプリから指定のアプリも起動できます)
- アプリを起動時にパラメータを渡して起動時の動作を指定できます。

2015/9/28 i-Reporter for Windows 2.2.0014 より、カスタムURLスキームに対応しました。



地図アプリの起動
文書アプリの起動
メールの起動
... e t c



カスタムURLスキームを実装してるアプリを
起動できます。
また、起動の際にパラメーターを渡して動作
を指定できます。
e x) 地図アプリに住所を渡して起動時に渡
した住所の地図を表示される。

i-ReporterのカスタムURLスキームで、できること

- アプリ起動（+自動ログイン）
i-Reporterアプリを起動します。
- 定義から帳票作成（+自動、手動ログイン）
定義IDを指定してi-Reporterアプリを起動することにより
指定した定義から帳票新規作成モードで起動します。
- 帳票の編集（+自動、手動ログイン）
定義IDを指定してi-Reporterアプリを起動することにより
指定した帳票を開いた状態でアプリを起動します。



自動ログインはパラメーターに暗号化済みのログインID、パスワードを渡すことで起動と同時にサーバーへ自動でログインを行います。
あらかじめアプリ側でログインしておく場合は、自動ログインは必要ありません。

※自動ログインのためパラメーター用暗号化済みログインID、パスワードを取得するには「外部連携APIオプション」が必要です。

カスタムURLスキームを使用したシステム構築イメージ



ブラウザで利用する
Web業務アプリケーション

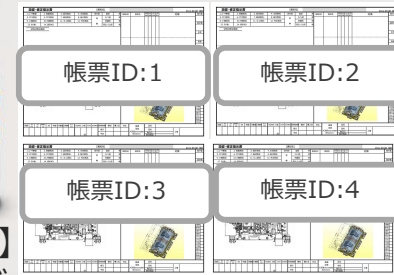


作業指示書作
成CSV

レスポンス
(帳票ID)



【自動帳票作成APIで帳票作成】
工事番号、部品番号、工番など
必要な情報埋め込んで生成する



取得

i-Reporterで採番された帳票IDが返されるので
カスタムURLスキームのパラメータのように保持する。

起動

〇〇〇生産管理システム

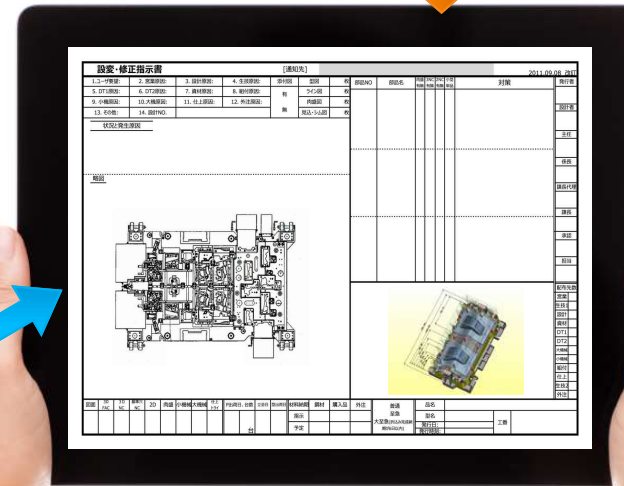
作業工程一覧

工事番号	部品番号	工程番号	担当	作業指示書
A00001	B001	K01	Aさん	i-Reporterで開く
A00001	B001	K02	Aさん	i-Reporterで開く
A00001	B002	K03	Aさん	i-Reporterで開く
A00001	B002	K04	Aさん	i-Reporterで開く

業務システムデータと紐
付したi-Reporter帳票ID
をパラメータにして、カ
スタムURLスキームのリン
クタグをページに埋め
込む。

作業指示書

- [i-Reporterで開く](#)
- [i-Reporterで開く](#)
- [i-Reporterで開く](#)
- [i-Reporterで開く](#)

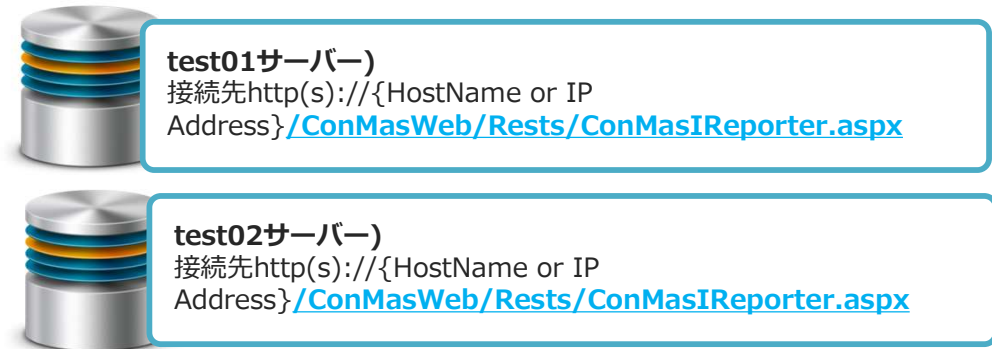


カスタムURLスキームにて起動後、
パラメータの帳票IDを元に
指定帳票を編集モードで開くことで
業務アプリケーションとの連動が可能

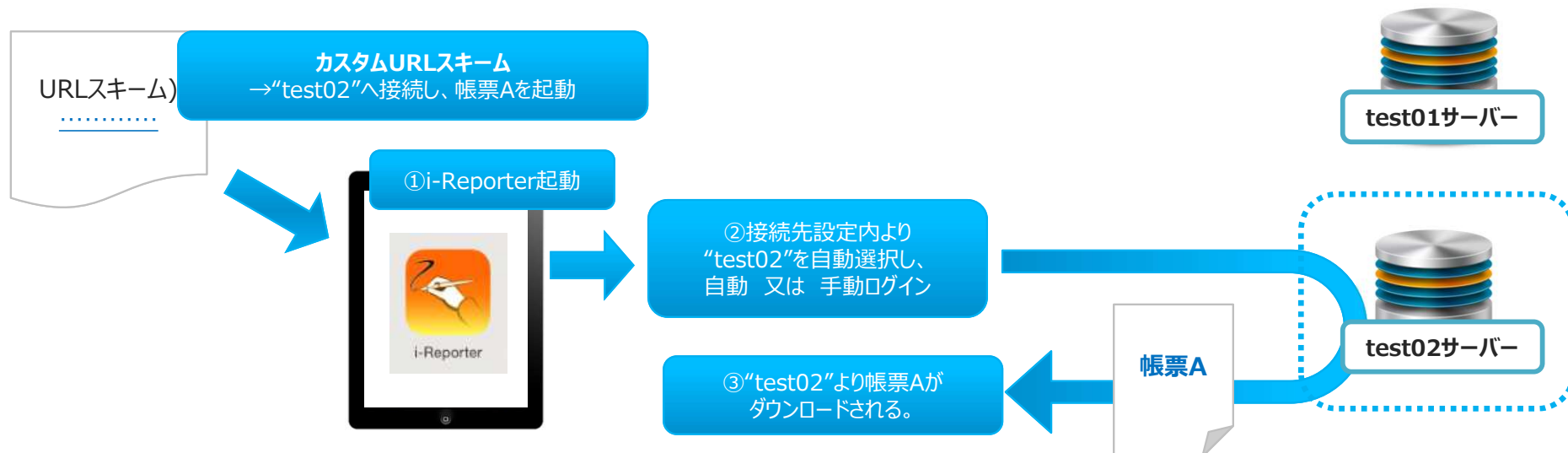
複数接続先が設定されている場合のカスタムURLスキーム

V4.2.3405より複数接続先設定されたiPadでもカスタムURLスキームを利用して入力帳票起動、帳票定義起動が出来るようになります。

複数接続先設定されたi-Reporter



このような設定をしたi-Reporterであっても、カスタムURLスキーム内のパラメーターにサーバー指定をする事で、「○○サーバー上の○○帳票を起動」する事が可能となります。
細かな記述方法につきましては、「[カスタムURLスキーム_インターフェース仕様](#)」を参照ください。



Windows版 i-Reporter カスタムURLスキームでの注意点

- Windows版 i-ReporterでカスタムURLスキーム機能を利用するためには、管理者権限でアプリケーションのインストールをお願いいたします。
- URLスキーム文字列は基本的にiOSと同じ仕様ですが、
細かな記述方法につきましては、「カスタムURLスキーム インターフェース仕様」を参照ください。
Windows版URLスキーム文字列のサンプルを記載しております。

カスタムURLスキーム カスタムマスター連携

V5.2.16110よりカスタムURLスキーム「定義から帳票作成」時に
クラスターに入力値をセットできます。

セットするクラスターが「マスター選択」の場合は指定した値に対しレコードキーによる
完全一致検索を行います。

レコードが見つければ選択された行を自動でセットします。

例)

カスタムマスター：社員マスター

社員コード (レコードキー)	社員名称	所属部門コード
1000	太郎	01

jp.co.cimtops.ireporter.createrreport://defid=XXX&user_id=1000

↓

社員コード	<input type="text" value="1000"/>
社員名称	<input type="text" value="太郎"/>
所属部門コード	<input type="text" value="01"/>

マスター選択クラスター
クラスター名:user_id

iOS版のみ

カスタムURLスキーム クラスタ値を入力する

カスタムURLスキームを使用して編集中の帳票に対して、クラスター名称をキーとして該当クラスターへ指定した値を入力することができます。

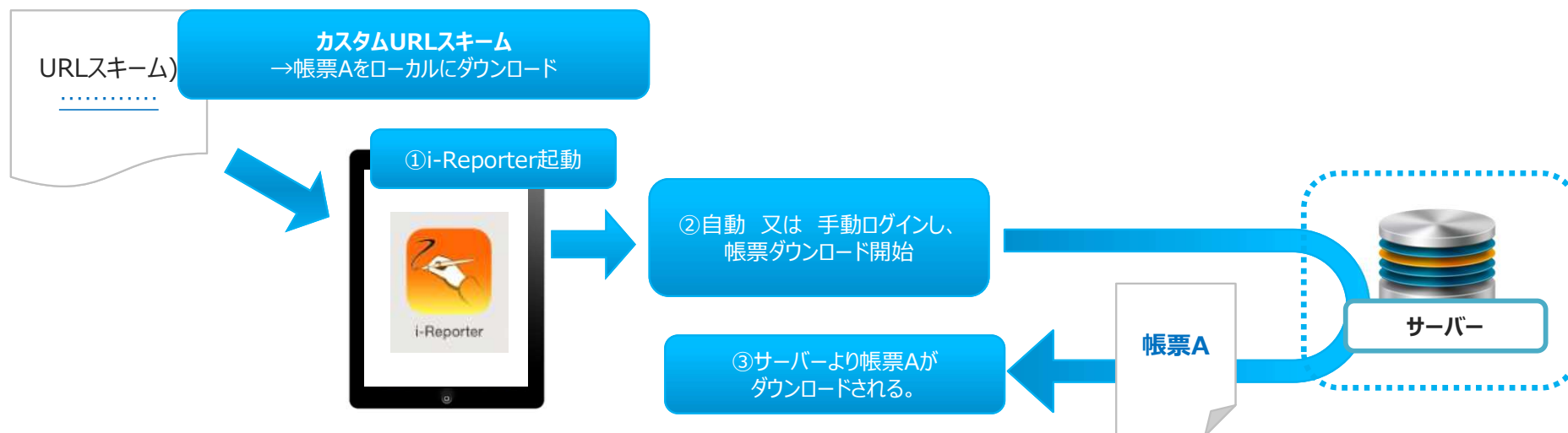
主に、別アプリケーション上で記入や測定を行った値をURLスキームを介することで、i-Reporter上で編集中の帳票へ自動記入する用途でご利用頂けます。

(別アプリケーション側でi-ReporterのURLスキームを発行する仕組みが必要)



帳票（定義）をローカルにダウンロードする

カスタムURLスキームにて“帳票”または“定義”をローカルにダウンロードできます。
1つのURLスキームで複数の帳票（定義）をダウンロードすることができます。



以下に該当する場合は帳票（定義）のダウンロードが行われません

- ・ 帳票（定義）がローカル保存できない設定になっている
- ・ 該当の帳票（定義）がローカルにすでに存在している
- ・ 権限不足によりダウンロードできない
- ・ 帳票（定義）がロックされている

iOS版のみ
V5.2.16120から
使用可能

クリップボード画像を受け取り、画像クラスターに表示する

カスタムURLスキームを使用して編集中の帳票に対して、別アプリにて撮影した画像をクラスター名称をキーとして、指定した画像クラスターにセットできます。別アプリ上で撮影した写真をURLスキームを介することで、i-Reporter上で編集中の帳票へ自動設定する用途でご利用頂けます。

(別アプリ側でi-ReporterのURLスキームを発行する仕組みが必要)

他のアプリケーション



jp.co.cimtops.ireporter.setcluster:image=board&InspectionImage=0



クラスター名称が「InspectionImage」のクラスター

他のアプリケーション側でURLスキームを発行



画像の受け渡しには iOS のクリップボード領域を利用します。i-Reporterアプリ側では、クリップボード領域に出力された画像を、指定されたインデックス番号に基づいて取得し帳票の画像クラスターに設定します。

iOS版のみ
使用可能